

2020年5月15日

住友生命保険相互会社

世界銀行（国際復興開発銀行）が発行する サステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資について ～新型コロナウイルス感染症対策を含む保健医療分野への支援～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、世界銀行傘下の国際復興開発銀行が発行する「サステナブル・ディベロップメント・ボンド」への投資（総額約 69 億円）を決定しました。

世界銀行が発行するサステナブル・ディベロップメント・ボンドとは、世界銀行が取り組む様々なプロジェクトを支援するために発行する債券です。特定のプロジェクトを資金使途とせず、均等に全ての世界銀行の融資プロジェクトを支える仕組みとなっていますが、2020年3月、世界銀行グループは、新型コロナウイルス拡大に対処すべく、今後15か月間に開発途上国に対して最大1,600億ドルの支援を行う用意があることを表明しました。同年4月には保健医療分野での融資活動を取組みの一例として紹介した4つの大型公募債を国際資本市場で発行しています。



©World Bank

本債券についても、世界銀行が発行する債券の特性上、資金使途が新型コロナウイルス対策に限定されるものではありませんが、新型コロナウイルス対策の資金需要への対応も重要な目的となっています。また、今回の投資は、世界銀行が展開する医療保健への融資プロジェクト、特に新型コロナウイルス対策への支援に期待し、住友生命が賛同および支援を表明したことで実現に至った取引であり、本債券は世界銀行が住友生命のみを対象に発行する私募債です。

<本債券の発行概要>

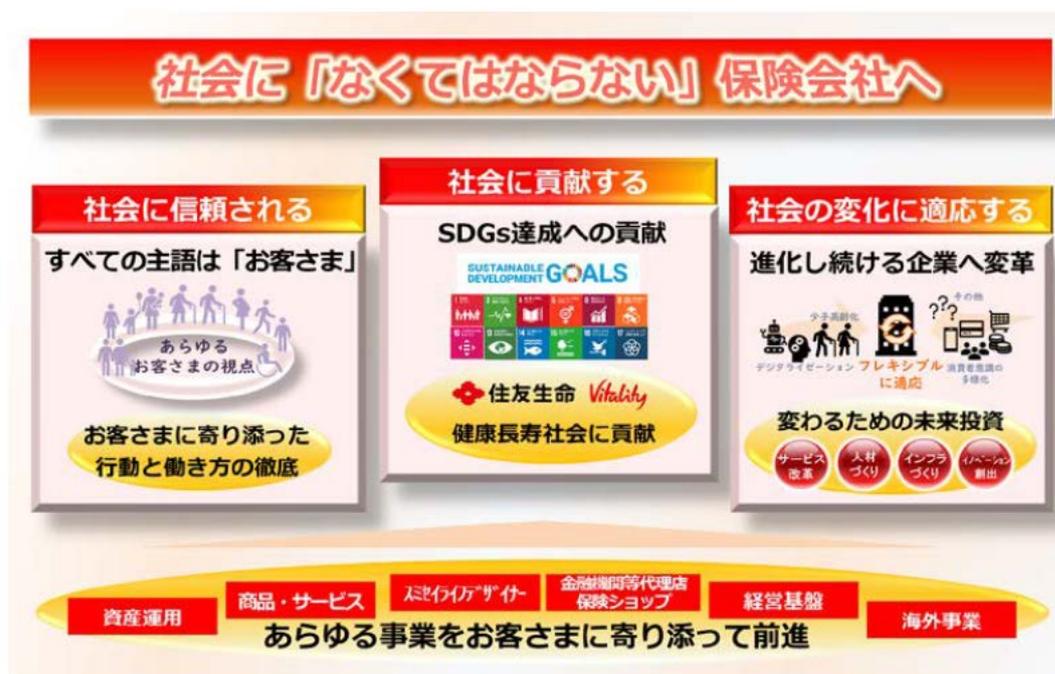
発行体：国際復興開発銀行（S&P 格付：AAA、Moody's 格付：Aaa、Fitch：AAA）

発行額：1億豪ドル（約69億円）

年 限：15年

住友生命は、「社会になくてはならない保険会社」の実現を目指し、事業活動を通じた持続可能な開発目標「SDGs」の達成に向けた取組みを進めています。また、ESG 投融資を、その主要な取組みの1つとして位置づけ、持続可能な社会の実現および中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識のもと、ESG 投融資に取り組んでおり、本債券への投資はその一環として行うものです。

<「スミセイ中期経営計画 2022」全体像>



今後も、ESG 投融資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでまいります。

以上